

大学名： 成蹊大学

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	10 校のチャレンジ期間実施校について、訪問、メール、Zoom ミーティングにより支援を行うことができた。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	オンライン講演会、一部対面のワークショップ等を実施し、ユネスコスクールの児童・生徒の他、地域住民などの参加を得た。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/record.html#lecture https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/news_topics/2022/12325.html https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/news_topics/2022/12482.html
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	ユネスコスクールに認定されている成蹊小学校、中学・高校、大学が連携し、web 上でリレーコラムを掲載した。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/record.html#column
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	ホームページにて、ユネスコスクールの存在や意義について紹介している。また、上記のオンライン講演会（講演会自体のポスター、チラシ）にてユネスコスクールの存在や意義を紹介した。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/esd_seikei.html 成蹊大学サステナビリティ教育研究センター所員が委員として参加する武蔵野市環境啓発施設運営会議においても、何回かにわたってその存在や意義について紹介した。

		http://www.city.musashino.lg.jp/shisei_joho/sesaku_keikaku/kankyoubu/1015358/1024529.html 三鷹市西部地区住民協議会による雑学大学にて、成蹊大学サステナビリティ教育研究センター所長が、本学におけるサステナビリティ活動について講演を行った。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/news_topics/2022/12485.html
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	武蔵野環境フェスタへの出展をとおして、成蹊大学のある武蔵野市を拠点とする多様なステークホルダーとユネスコスクールとを結びつける活動を実施した。 https://musashino-kankyo-festa.com/group-index/
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	ASPUnivnet 関東ブロックに加盟する大学（成蹊大学、玉川大学、創価大学、東海大学）間での連携を促進した。 また、武蔵野市教育委員会との共催で、小学生向け講座「地球温暖化とわたしたちの未来」を実施した。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/news_topics/2022/12325.html 上記の日本極地研究振興会の教材開発には、武蔵野市教育委員会、立川市教育委員会も加わっている。 武蔵野市寄附講座「未来を目指すものづくり技術～SDGsの実現に向けて～」を開催した。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	第2回関東ブロック大会を主催し、関東地域におけるユネスコスクールの活性化に貢献するとともに、地域外のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義についてアピールすることができた。 https://www.unesco-school.next.go.jp/conference/kanto2021/
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。（例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など）	
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	ホームページにて、ユネスコスクールの存在や意義について紹介している。また、上記のオンライン講演会（講演会自体のポスター、チラシ）にて、ユネスコスクールの存在や意義を紹介した。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/esd_seikei.html

	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	地球規模の環境問題、人権問題などに関する講義をとおして、ユネスコスクールにかかわる教育を実施した。副専攻制度のうちに、SDGs における「環境・地域」、「国際理解」、「人権・共生」の3つの側面に関する科目やそれらの「実践」に関する科目をバランスよく学べるよう SDGs 副専攻を設けている。 https://www.seikei.ac.jp/university/brilliant2020/fukusenko.html#cont18
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	
	4. 自由記述	